

## プレゼンテーション $N^2$ 法

東京大学 大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻

岡田真人

2024 年 4 月 6 日作成

©2024 Masato Okada

プレゼンテーション  $N^2$  法の創成の過程を説明することで、プレゼンテーション  $N^2$  法をつかう意味を説明して、具体的に、プレゼンテーション  $N^2$  法ではどうするかを説明する。

プレゼンテーション  $N^2$  法というのは、私が理研の脳科学研究センターに移ってそれなりの分量の内容を、比較的短時間の講演時間で、英語でプレゼンテーションしないといけない時に編み出したものです。それでは、プレゼンテーション  $N^2$  法を説明します。

1.

発表練習する時に、言葉に詰まった場合、そのスライドを使って、うまくしゃべるよう工夫するのをやめる。

発想を変えて、うまく喋れないのは、スライドの作りが悪いと考えます。その発想に従い、スライドを改訂します。

2. そして、ここからが重要なのですが、そのスライドだけを声を出して、発表練習するのではなく、最初のスライドから発表し直します。

3. そして、同じ場所で、また詰まったら、そのスライドを改訂し、2.に戻ります。

4. つまり  $N$  枚のスライドを通して、すっきりしゃべるようになるためには、

$$1+2+\dots+N=N(N+1)/2$$

の手間が必要です。普通はこんな面倒なことを指導する指導者はいないので

が、私は理研での英語プレゼンでそれをやった。

5. 2 のようにしないといけない理由は、脳内階層的情報表現をむりやり 1 次元言語表現に変換したので、どうしてもスライドを使ったプレゼンでは、喋りが難しい。

そこを解決するために、最後の仕上げとして、1 次元的な情報表現としてじっくりいくような喋りに仕上げる必要がある。

だから、スライドを改訂したら、そのスライドだけでなく、1 次元的に最初から発表して、スムーズである必要がある。

6. これが、プレゼンテーション  $N^2$  法の極意である。

理研から東大に移ってすぐの時は、スライド作成の段階で、今ほど系統的にスライドを詰めてなかったので、学生さんに発表させてみると、あちこちで、言葉に詰まるという状況になった。

私が同じスライドでプレゼンをすると、さっと説明できるが、学生さんは詰まる。そこで、理研時代を思い出して、学生さんにプレゼンテーション  $N^2$  法でプレゼンを指南した。

とても優秀で、スライドもうまくれた人も、プレゼンさせると全くうまくいかないことをしばしば経験しました。

多分、私が英語プレゼンテーションでプレゼンテーション  $N^2$  法を編み出したことから考えて、プレゼンテーションはかなり脳内の言語を司る領野に負荷をかける作業のようです。私の場合は日本語のプレゼンは完璧ですが、英語の負荷が脳にかかり、それで脳内の言語を司る領野のリソースが減り英語プレゼンテーションでは全くだめになり、苦肉の策で、プレゼンテーション  $N^2$  法を編み出したと今では考えています。

学生さんの場合は、日本語でもプレゼンテーションは素人なので、脳内の言語を司る領野に想像以上の負荷がかかり、よくできる人でも、プレゼンテーションはできないこと往往にしてあるのは上で書いたとおりです。

だから、私の英語プレゼンテーションで編み出したプレゼンテーションN<sup>2</sup>法を学生さんの場合は日本語プレゼンテーションの練習に使うことでプレゼンテーション能力が上がります。さらに、それを繰り返せば、だんだんスライド作成自身にも、プレゼンテーションN<sup>2</sup>法の知見を使うようになり、取り立てて練習しなくても、プレゼンテーションが最初から問題なくできるようになります。

以上の理由で、プロジェクターを使って、声を出して、発表で言葉に詰まったにつまった場合は、プレゼンテーションN<sup>2</sup>法を導入するのが良いと思います。